別3
60
1

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』 請求記号 本別3-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1

ガラス使用

閻魔庵圖書部

蜻蛉

巻名以詞并ニ哥一号ス之ヲ　くげろふのものそれともいとゝれをえ
ありとゝんくまにいとゝれをえ
しくげろふ（細）浴身の後のものそ翌日のまゝ
て秋よろ〳〵。葉北六巻ニ
蜻（エン）蛉等の依くあり。字みくゝ
くげろふのこゝろ也とよめり。陽炎（カゲロウ）
うつゝともまぼろしともわかぬ。事嶺ニ云蜻蜓ハ蜻蛉の一名。蜻
蛉ハとんぼうなり　異記之　三　此物語の意ハ名ハかりをも
ちゐて。帝未空怪ノ奥別ニ記ス。
いとりて。義浴後よ浴ゝ

帝國圖書館藏書之印

うつゝともまぼろしともわかぬ。（浴身のうつゝともまぼろしともわかぬと。）
とうげのうへ依のうへ　（浴身の意）
浴身の意のまゝ姫
君の我身をうつゝ
と思つゝくらすいとゝ
あはれなり。（浴身のまゝ姫君の我身をうつゝともまぼろしともわかぬと思つゝくらすいとゝあはれなり。）
かゝるもの人のもてあ
そびものとなるもいとよ
のつゝ。師　此巻端の
句ゝりくりかへしつけそへひ
つゝけそへいまく
浴着の後ゝり
物語りの　細（浴身）
物語ゝり　明　河海の説
不紙。花鳥風月物語
を引それくに不紙。説
河の古物語のその世よつ
つゝぬけり。（紫物語師曉細（浴身）物語
との世よりくねれ
伊勢物語よ人のひとも
をねもこそひとの
ゆくりもなく大和物語
よ大納言のひとあと同今

（浴身のうつゝともまぼろしともわかぬと。）地くをぬと。りとめさくけど
んあるこのやう（三）（母の言より誦経させ（浴）
けど。帝のうへ（母の役の詞）
うべ〳〵つゝるゝ（主人のねてをもらひこゝろ）
るのうへなくよ
ひのうへよいう（三）（母の言）
てまぢふこと浪（ナミ）る。（物語も推）
（細母の方へうつるこのうへ）
てぢちぐさのへるをうのい
うるんいぢ〳〵くをいつゝし
るよ身をとびのへるとは思
（細母の方へうつるこのうへ）
ゝ及ばゝるくこのうへとあけれ

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1
ガラス使用

人のうわさをするをきゝて（孟母「人のうわさをするをきゝてわれもいふはよくないことだ」）
ふつゝともつひづれば（実）
幾右衛門ようろと同じ（実）
うわさをきゝてもきゝぬをり
りのへうそつき（細君）
（孟母「うそつきのするのは」）
（孟母「人のうわさをするのは」）
（孟母「人のうわさをするのは」）
（孟母「人のうわさを

（孟白を活字のうつりとのこと。）

なぐさめ。（孟白を活字のうつりとのこと。）

うつりぬれば。（ものうつりことをうつりと云も孟白の例。）

人と。ゆきゝくれんとやあら。（活字の人ともに。）

ゆきゝ。（孟白の例。）

ゆきゝ。（活字のうつりぬるぞ。）

なりぬる。（孟白の例。）

ようを。（活字のうつりぬるぞ。）

しき人もおかり。（孟白の例。）

活人ぐさ。（孟白の例。）

なりぬる。（孟白の例。）

せうそこ。（孟白の例。）

くるゝ。（孟白の例。）

（活字のうつりぬるぞ。）

（孟白の例。）

（活字のうつりぬるぞ。）

（孟白の例。）

（活字のうつりぬるぞ。）

いとかしこき乳母ども
盂旬の中幷に叔方の表
とそのつ
ゑすこんいとくいさろ
さぬ　旬ぞこのおこそと
よてそたも雛祭なれ叔方なくく字治ゆ
さつさてとく　お同じ
下そのさ母ともくさてれい
お叔方ごすつくさる
なくていまろごてといてるようのり

つるくてやあくさ　ここちやうよそごさ俺を
ようへくく例のうろもれ字治ゆごよ
あひくいるろこと　をうくうぞとあるい
そよ・だもていひごこと
いとかしこき乳母ども
つこりやすさひとくいさうさぬ　俺
つこりやすさふろもあさまくく
れくだものさ俺まてさてれい人ゆく
立さはごてこてこ　叔方がさてこ
ゆるみごいつをうそこれどもえあは
そ俺女をよをさくさ　たを旬
ど・よくく今りのまそ

ろういてよひごりてそ　叔方をが旬今ろり叔叔河
方のさろゆごさるのと
ろり

まのくさろごよ
叔叔方幷叔をさて立
ろり

ひさよいてくろ・明一日あのさそまく
でゆろうひいさくと　卵旬方の幹くゆ
しく浴女の歌ろ立

もをでなん・さろとひごりてそくも
ろろり幷ゆあえさしぬこさくもせ
いしいみもあぐ・衣のやうみくれ
もくまごひ幷ろ　ほあのて衣とのろ
つろ俺一衣いてくんごろとなくそまり
ろ俺ろ　ゆをさろて衣いくと
ろごん人のつこ幷ろゆごさて・今てび立

ガラス使用

めしとるるへ
細 时方が霊での指置
ろう

うつかのかりうきふしと
細 業のうへもふかゝるへき
つきこゝろ 孟いつく
くいつるより 霊

あかつきをいかにしてまつ
つらし 我ゝをえうち
ならし
細 夏祓よみて
ふるさとをいでゝ
もろ人〳〵 河 宋王為盗
原作招魂辞曰帝告巫
陽曰有人在下我欲輔

と 亀鼈離散没巫咸ニ
手逸楚辞章句曰帝ハ
謂天帝也巫陽神醫
也 言梵天帝尺ハ人招
魂ハ恐利天の主也海
ハ東西ゝ南原招魂
の句を作れるなり
つ家の句よけくて
別よ帝尺の人の死
と〳〵うを猶ゐ
まて死ぬへき君紀
うろえぬこゝろ
ゐと 天やがてこゝひおさ
めなんとつゝゝ
みのゝくとそゝぬ
と歌をおもひ
みさりしもとくのまゝ
て ゐをそゝひるゐを
のてゝせろぬそもろせの
ろゝいゝあゝ
ハゐりしこ
のみてゝもゝ
孟ゝゝゝ

細 人よまれ 三 时方ゝ
もゝすんとゝ
とゝもすゝか
没ゐと人のうろ
り人のくゝ
細 旬の没ゐの
しめんと 孟右近衛佐ゝ
まるれつゝひろり
ゐゝこの
うんゐ役のつゝ
のまゝせのて
つるれんゝ
や 女のゝろ

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1

ガラス使用

ガラス使用

車ニセヨ
ニハ
人のひつぐべきなり
おもふ所ありてかくはいふなり
車ニセヨ
ニハ
孝武皇帝曰吾聞黄帝已仙上天群臣葬其衣冠史記日本紀ヲ七日本武尊化白鳥後ヨリ出テ上天ニ群臣其

衣冠ヲ葬ル記

法師のさうりしてやるそ
盂大葬のやうにそうそう
ひろの八郎の煙れ古
事別は泊をへもな
きを死人のあるうに
て葬うる例あり

うえやくそうろう 細 花をる
うえ世やわう人くわり
やくうえ人くハ花世わる海
なうろうさ乱ゆる盂門参

まうろうえ
これあるのもろう法師のごうしてや
うをいとそうるくてそうついそれ
人ぐもいせりくうこうそくしく
ふのやくうおくいつ
ふるおやそうそ
いてめやそうそ
ともふ法いつぶ
ふ盂田舎人いそうそう
られわるるうく
はそう人いこう
ふおやそうそ
ふ法かうそ
ひろうそうそ
つまうそうそ

字法の里人々
細わるうにい術よ
ふ棺拾骨るこやうのうえ
ふ

うえやくそうろう 細 花をる
うえ世やわう人くわり
やくうえ人くハ花世わる海
なうろうさ乱ゆる盂門参

うえ人くハ花世わる海
なうろうさ乱ゆる盂門参

うえやくそうろう 細 花をる
うえ世やわう人くわり
やくう

[illegible]のりよきいの人にて
孟子あつまの人乃ちやうに
なりてひじりこんじやうせて
もと乗
人のこゝろをこゝせんとて
孟世子の玄孝をこゝせんと
まのやうひろめ白きこと
こゝやう仰まよ発仏
すゝめとて仏の方便
よくあろうとく
方便を慈悲とも細歎を
りとしてれの方便よ
くこゝろとこゝろ仰方
便ハてとむく慈悲を障てといふよ慈
悲をこゝろとて先人よ
うこゝろをもこゝろとてこれ
よ發んすゝめて善提よ
ろびさうく実ハ般若
方便の大慈悲るれつ
やめのこゝろ 三白の
般若のこゝろ

[illegible]よう[illegible]
ひ 如来のよく物が
ものとそのごとく実の仏毒
らるまをろうてゆへ
あるとこ

まそのみこゝろのこゝろよ
あるこゝろ仰 まの仏文や
てゆひ一つりよいあるこ
じゆいを結一こゝろそ
そんく芸のやひ結こ
るうしんうこゝろ
うしハ我一あり
孟子のこゝろ毒のこゝろ人
のあ芸のこゝろ仰
ゆへるまこゝろ
ろうしハ我一あり

めのこゝろさ
しゆびこゝろ
ばいるこゝろ
やうこゝろ
ゆれでいうの
こゝろ仰
こゝろ結よ
のこよいあるこ
こゝろ仰
たびこゝろ
こゝろ
よ。

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1
ガラス使用

まらうどたちもひとつ
盃のかはらけとりまはしなどするほどに
平ひらなるかはらけのいとおほきなるに
ねりものいろいろもりたるを
れいの盃のさかなとて
その次第細かに
見知りたる法の兄弟
みうちの或ひとの家
雨よみくさうの景
ありさまくわしうの出
ひのかれわかに伝授服
のうち物などめづらしき
立物ゆゑ物語の作り
物語脇にたてまつの私
家と盃事済てより
うたひ紫或ひとが彩雲の
曲一こし
人々まいてそのやう
白へ出立ましのかたを
退出ぬうち注

（ぬ）注文のうへにてかくしたるもの
つまるてまつくざうし
ざて多り注そのの
ゆうをうせ注よくの
盃の伯父の服衣と云ふ注文の服の
うちのうちよ表うり
まくられくつこ
やせうこや
をやをていくぐうた
そうくんぐまうぐ
れうりうめ
白うへ実の出立ひ
ぞもわくぐて注うんをあいうくつまし

盃事ようつけうもいぐ源のゆかりをこさ
みぎようつけうもいぐ盃事のうへにてさ
をゆうをど出立ひ
ようぐうぐ
ぐうみも作くぬを
病のこ面うりうの
みこゆうりさうぐ
のつねうきをそん
そーのごのまうぐ
のやうくぐうり
ーさうのゆ
ろえんぐめくろ
えんをもうしさ
ぐとゆうりうくん就をうくんおう

いくうくうれどうう
盃まぐうりめてそあ
れどうくうろうろうん
毎のうゆとうも業の
出うれうと白のおこ所そ
うく出白のをゆ出
あうくぐようえまりんも
みてもいくぐうこのせ

ぐそくわう　細毋方
文仁方の人うれハ世作
のゆとつるま
三花兄弟わうの人へ給う
おうちゆくへのまよ故
のわざそゆるさてもろ
うとうたうと

うとうりしうりんも
孟母　花三年ゆ日縁
よりうとうとい無し
月さうて　細四月よ
るり孟母の母をゐ
けりうとハ三月九日に
白ゆ糸へむくうりんと
のうひしそのうとう花
のうとう落母の母ゐよ
将夜ん卯月の十日と
うハうごめ給うとう
四のうれお幸　孟幸四し
文れとありて引方意衣

帝よりつく　細おうとう人の帝よりうりけるう
ゆの文よ　細二文俗ゆ白文
おつまそ附ゆうれりへ
おこ文文うう二文流へよ
わうれいうう
志のひわや　細そのめう
しうううう　三都え
へそでのうとうて像四を
りそし慈源をうう
りのうりそ物をうく
人へわれと回り後と
りりまかうとう
ほみのゆとゆそう
都えハ眞五うりうう
文こ花そその山そて
やうう都えゆうん
のくうううんを
もれの　細りのめうう
ゆうとうのくうわうう
くうわうハ不をじハし
て吟べうううく孟文物
よ白をうとうううわ
そぐれべうう出母ひの

ぐうて給うんと
のう紙くうてう
うの人へてみうとを切ひて　そぐ
うりうんうるぐ
給母の死去のう白ゆりくうう
ゆつうるうもうぐそ
うづうううう海わ
うとを　なぐごと
うんもうへうううれのう
うとう　孟母四月九日
ゆ白の久當
てうう帝よりうう
れとうりうんうひうぐう給

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1

ガラス使用

[illegible]
[illegible]
[illegible]

うら世見るべくもあらぬ
うきをいむ心のそこに
れさりけるつゐに哦う
つせ貝とうみをこそ
川のひまもまくとく
万葉よりもえんくうみ
くそ哉 孟子ぐれさ
剣の条也 孟子ぐれさ
ゆるめる哦
みられもいるるうん
孟ほ母のまれぐうり
いくと母のうひれて辛
寿く
のうりのくてくも
孟ほ母のうよけて
うりのみるうもそ
みる

まうくいるうやこに芸
七日もうくまにまーく
母のやうひうりへほのと
んぐうくもあうりとい

ほ母の母こかねの素の青そうとく
ぐそ。ね母ふんいろふよみうひべさひもめ
のくくよりうつくくはげぐれいまい
家みもえいうぐずとぐわかる旅ねのくて。
三条の小家るうへ
ひうぐさむかうくもなくよみられもいるるう
んくねりへぐくうこうこうてぐうゆし
孟母のこと
つまうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
これいようこうこうこうこうこうこうこうこう
ぐそのうりのへぐてうへも笑。
三
ほ母の母のこと
えぐぐうれうぐふひてうぐすよ。ふる哦くうり
ほ母の母のこと
へねてまうれうふう
ほ役母ひくくあうれ
細芸のこの句
まーくあうれうりあさまーくうてのひぐ
さうてむとそのふのぐうひべ笑
これよ照川と合めうり
もうくさううてよくいうるうやこよ
うう海ぐくれ治

ひうりて越えて程をとる
一つる

ふのくよりうりを
細ほ母のくほ役よ母のと
まへうこ孟子の父
句ぬ
三芸の年杜ふうぬ
ほ母の母へもくー
のひりうしやふ母の
ひうりぐれぐも今よ
ゆくすふをえう徐
うくーとほーてのまし

つうよぐうるく
そうこ合うり
うんぐのつひうる
くのくくべうる
ぐぐさみーるぐ
とみもぐひのう
れつうひみほうり
うのぐうよう
りはりりうぐ
ーありうくうれ
りのうるうよ
まうとう

孟仲信
芸ふうのこと
ぐうくうこうこうこうこうこうこうこうこう
ぐうくうこうこうこうこうこうこうこうこう
ぐうくうこうこうこうこうこうこうこうこう

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1　　ガラス使用

六十餘 細書ハ大般若
をよむ。讀誦六十人
餘ゝ。法華八講
うのごとし。師僧
六十餘そ。或若指
讀の時。
ゝ。又中陰の仏事
六十餘請ぜ
ゝ。七僧をハ六十餘
のごとくす。七僧
ゝ。
白布
布施
三
常陸の守
てかへさるゝと
人〻も
ひ
ゝ。

抄來居也

世ゞもこゝにて
をうりて
ゝ。人ゝ
ゝ。
白布のこと
ゝ。
三
妻の家人之俤
ゝ。夜の
ゝ。
ゝ。
ゝ。

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1

ガラス使用

いまそのこころそれ人
それともみこ
師 女二文へ出文まつせ
多くて中文のこませあ
ん女二文もいでまた
れるえぬぞ
らくらうぞます 細ぶよ
つくしくまり油
もえ そいこくよもに
くめるのそこ
暁 蓋の句 ことうのくせ
ことせ ことうへ
蓋の宝 これぬ
ゆうよせん ことぞま
へるべきみこ 很こと始
みこ

仰ぐうこと 知中文の浄句 おやしくるぐて
ことせ ことの句よ蓋のことう
ことそて ゆし始りん 句 みくらことふ
つくて ことぐくる
盃へ ぶつ ことうぐみこ
取ぐよるり始しりよ
よそてあくん
ものをるぐうる
そことくる
始りし ことのようひよ
るれ始よをん
きことよぐう

師小宰相こ一日みぐこと
一夜のぐぐのへよありん
蓋の句
うりこげぐり
ことうぐ一
ことこと慶とろ
して 中文の仏ほんとを
ゆくそうとこ
うりをげみいと
りてるこ
慶のこと
つまぐのまへよわ
師 女二文の女房ことうのるこ
るぐ このれこ
うくれば
てみことろ

師 女二文の句 蓋の句 細蓋の句 今ことうへ兄ことぶんとこれんとこ

ぞことろぐことうへ始りてけぐり
師小宰相こ一日みぐこと
一夜のぐぐのへよありん
蓋の句
盃 蓋の下に一文字
をやひりけてりことろ
ことろ中文しゆりめ
さあくこ
あうくことろ慶もうぐあ
ることん 細八條の阿孔
ことろ慶こ 盃八條の辰女
一文字をえ始一方ぜす
しぐうよぐをうてて
ろえく

ゆことうびてみこと
盃 飲べもることうぐり
幸ことりのやこにうり
ことこ蓋の句こ師 幸

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1
ガラス使用

（細）女房生の洞し
（細）夕霧のみこらも
（細）大納言の洞し
（細）姉文の君の洞し
（細）白文の君の洞し
（細）小宰相の洞し
（細）小宰相
（細）女房生の洞し
（細）大納言の洞し
（細）姉文の君の洞し
（細）白文の君の洞し
（細）小宰相
（細）女房生の洞し
（細）夕霧のみこらも
（細）大納言の洞し
（細）姉文の君の洞し
（細）白文の君の洞し
（細）小宰相

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1
ガラス使用

いとうつくしげなるをやりて
んとうづーやにいりてこと
盃白のうつくしきをやり
かくさし中文のうく
小宰相のかえりうち
が和しうたひ

ひとうちのさかづきのうたひ
うめい 三 常陸が妻を
浴衣の母ども伯母ども
小実母を人のもてなし
その妻どもよりそひて
盃白の浴衣
しうたひいだす

おまへうつくしませ
お白の浴衣申よを
てうちうたひいだす

馬をひかせて
浴衣も白と云まで
文をとりいれ
や申文の内
ありさまなどいとうつくしげ
ぞとよいとうつくしげ
づりめづらしくうつくしげ
で世中のかぎりの
のやうにそのうつくしげ

ありさまなどいとうつくしげなるをやりて
でうちうたひいだす
人々の浴衣
小実母を人のもてなし
その妻どもよりそひて
小二条の中方の
別腹と
うたひいだす
をとりいれ
それ文
へ給りんとそ
くし給ふ
ありさまなどいとうつくしげ
ぞとよいとうつくしげ
づりめづらしくうつくしげ
で世中のかぎりの
のやうにそのうつくしげ

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1

ガラス使用

秋のそよ　細　ぐうろの
うつろうおタ風のさ
てタよひとも女二の
御ふうじきとうびん
うつてもろくまわり
御女二宮うり女二宮への品
巻ものよ絵をそんてなり
とてばかをおそんてうつ
かとく

そのくての　細　巻よ前
にたるうくうり絵巻よ
てそ絵あのうちも出
さうれとうり

うさのうくうの　御女宮の
るをそう
入さかりへありうくうて
しめうくうく
盃大宮のおうと笑れさ
らいお二宮をもうふま

ぞうろおーさ　妻おさ
秋のそよ夢のみさむをぶ秋風をタぞ　せう川のうるのおざくしにうさ
わうそ月みうくけうくうてうそうへ
ましくゆびをそんたうつゆびり
のあをうそうとりうくうびうそうびうそ　御
しげうせるんでうさうとうそ
のうるのみうでのおむをめを
うやとりのをうひくのうていむりの人を　盃大宮
のうの絵のうくいまうくいびうふもくねうよふ
ものやとうさうあ。みさうへあり
とうそうめうびうくうまうく

うびうさうくわびふうそびうさ絵中去のうもし
盃大宮のおうと笑れさらいお二宮をもうふま

うびうさうくうへ御女宮の指娘を

の位ものさまおのの
よとる

この位そみえのもよ
盃白のぬるの幸性又
そよあるつよりうの
るんとそれも
紙ゆえ中えれ怪服と
ハ肉へよりうまり

ハ肉のえいとうとも
盃業ハ肉ハ法入ある分
るハうそれハ陽ゆうる
ゝゝ

いうとうもくうりて
盃いうれのよりうとも
ほ身の吹るくうろ
人指をと伯法ろそも
お白ハうりも業ハ吹る
法身のるぐゝてお〻そハ
めてさまとゆうんとも

盃夕方の一枚磐昌し
ハ〻うとい海めゝさてん
ハ〻くいみへ
まうりてさんる
るくこととおいまこ指ろのよ遠倒名称あるこ
はんるゝば月ごろの月どよ。いるるとそ
そゝとぞもをもつくおうまりよいすうひるとし
しうまはりぐちうるこよるく
結れとうるうとそれハ秋のうりの栗のはをと
結んとそれハ秋のうりの栗のはをと
ぞんてそ。わうんハいありり
てうれまうつどひうるう。みはるれ

月をめぐゝれあそび
海めゝそれぐ。細白し
とうよるくりそ
もる我の海うん
よ。大和のえいいと
し給うあほどと
るう指ようれそ
てれ前よおてす
うりのぞうよいづ方みもくよ
つうくゝぐゝうき
て世みぞゆそ世
るくんうりけう

お法花のうく
細白の法うく
宝法よありし法指し
法指うく
盃白業
ほ身のし

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1

ガラス使用

別3
60
1

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号 本別3-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』 請求記号 本別3-1

ガラス使用